

# 月刊 やちまなこ

2011.4.15 発行

No. 161

## 4月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湖の氷も一気に解けた水辺では北へ向け旅立つオオハクチョウやヒシクイが群れ、上空ではオジロワシやオオワシが大きく円を描きながら飛んでいた。

湿原で新しい命を育むため、南から飛んできたアオサギもコロニーのあるカラマツ林上空を舞い、既に抱卵したり、巣材となる木の枝を運ぶ姿も見られる。この先、花とともに鳥や昆虫が増え、再び活気に満ちた季節を迎える。

# コッタロ川と湿原のほとりから

## 130 4月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

春暁の淡い眠りの中での悪夢がまぎれもない現実となって丁度ひと月、未だまだ余震に次ぐ余震で、母なる大地の逆鱗は一向に治まる気配すら見せてくれません。偶然にも阪神大震災の体験から生まれかわって生きる為に幸か不幸かコッタロで、とことん『足るを知る』暮らしに突入して早16年が経ちました。しかし乍らこの期に及んでまたしても「生きる意味」や「いかにしすべきか」をキルケゴールに立ちかえって問い直し、今更深く考えざるを得ないのは案外必然かもしれませんね。



ところで、魔法がとけてしまった様な湿原に雪は無く、地中から沸きあがるエゾアカガエルの大合唱が聞こえてきてホッとさせられております。庭の池の岸边や水溜まりに産み重ねられた大量の卵塊からすでにチロチロと泳ぎ出しているオタマジャクシも数多く見られて嬉しい日常です。



さて、このところ日中+15~19になるかと思えば翌朝-10というぐはぐな気候にもかかわらず、春陽は確実に感じられ、雪どけの進んだ草地にはエゾ鹿と各々50頭余りが22ヘクタールの端から端迄ずらーと立ち並びます。無邪気な彼等に悪意は全くありませんし、人類へのしっぺ返しとして甘んじねばならず、可能な限り自然と密着して生きて行く外ありません。今、の成獣はほぼ100%孕み鹿で、同士は角を競い合ってはいるものの、大小にかかわらず全てが脱落し生え替わる運命にあります。肉眼ではすこぶる圧巻ですがとても一枚の写真にはおさまりきれず、部分カットでご覧頂く外ありませんのでよろしく。又、この時季ハタと訪れる季節はずれの吹雪にしたたか尻を叩かれて突如踵を返してかけ去るユーモラスな後姿もどうぞ楽しんで下さい。



一方、空に目をやれば、大ヒシクイ20羽、11羽、13羽の群が順次竿になり鉤になって渡って行き、“フンガフンガ……”と鼻濁音での鳴き声が白鳥のそれとは明らかに異なっていて、しばし鳴き真似してみるのも面白



いひとときでした。

又、今季忘れ難い一羽の黄レンジャクの目にも鮮やかな羽毛の一枚一枚に込められた美的センス-神技-に、或いはその堂々たる態度が不思議と常連のヒヨドリにも伝わって、刻みリンゴを一人占めされ乍らたじたじの連続に、思わずシャッターを押した一枚をとくと観て頂きましょう。

## 湿原の住人たち その121

## ヤマゲラ



日本では北海道だけに棲んでいるヤマゲラは全長が約30cmと、体色が黒・白・赤で全長24cmのアカゲラよりも大きく、背中の黄緑色が目立つキツツキの仲間です。一年を通して見られる鳥で、最近ではセンター周辺から「キョー・キョキョキョキョ」とも「ピョー・ピョピョピョピョ」とも聞こえる、一音目が高くして後は尻下がりの独特の音が聞こえていました。先日、なわばり宣言?の嘴で木を叩く“ドラミング”の音をたよりに探してみると、頭部の赤いオスが、樹上はもちろん地面にも下りて餌となる虫を探していました。体の色が芽吹き始めた草の色に溶け込んでいて、一瞬どこへ行ったか見失ってしまうほどでした。

## 春植物を見に行こう!



フクジュソウ(4/6 塘路湖畔)

雪解けとともに、落葉広葉樹林の明るい床林や自然堤防沿いの土手などで、フクジュソウやエゾエンゴサク、ウラボロイチゲやアズマイチゲといった、春植物とかスプリング・エフェメラル(春の儂い命)と呼ばれる草丈が10~20cmほどの花々が咲き始めました。

樹木や背丈の高い草花が姿を現す前に葉を展開し、花を咲かせ、栄養を蓄えて結実させ、晩春には姿を隠して来春まで休眠に入ります。散策しながら花と昆虫の不思議な関係を観察したり、春の空気を楽しんだり、花々を見て季節感を味わってみませんか。

かせ、栄養を蓄えて結実させ、晩春には姿を隠して来春まで休眠に入ります。散策しながら花と昆虫の不思議な関係を観察したり、春の空気を楽しんだり、花々を見て季節感を味わってみませんか。



ウラボロイチゲ(左)とエゾエンゴサク(4/6 コッタロ)

## ネムネムのとうろうろう日記 Vol. 30 「親切が仇に」

郷土館の中ではクジャクチョウが越冬し、この時期になると館内のストーブのまわりや窓際など、暖かいところに出没します。窓の向こうに向かってパタパタと羽ばたく彼らを見ると、さてどうしたものかな、と考えてしまいます。

実は今までそんなチョウを見かけると、外に放していたのです。しかし昨年「さあ、お逃げ!」といったように外の日当たりのいい場所に止まらせてあげたところ、ハクセキレイが現れました。尾をピコピコしながら歩き回る姿に、こちらは「ああ、鳥達も春だねえ。」とのんきに眺めていると、ハクセキレイは突然こちらに向かって走り出し、さっき逃がしてあげたクジャクチョウをばくっ!と(ああっ!)美しいクジャク模様の翅が無残にもバラバラになって春風に散っていき、私はなんとも申し訳ない気分になりました。

それからは、親切もほどほどにしようと心に決めています。 辻 ねむ(標茶町郷土館学芸員)

4がつ 2にち

ばしょ とうろ



「どうする?君を外に出してあげてもいいけど、その後は自己責任だからね。」

# 4・5月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

## フィールドウォッチング・野鳥のふしぎ

[日時] 5/14 (土) 10:00～12:00

[定員・参加料] 15名・無料

[場所] シラルト口湖・蝶の森 (集合は憩の家かや沼駐車場)

[持ち物] あれば双眼鏡

## 企画展 建物が語る120年の歴史展 (標茶町郷土館共催)

[日時] 4/29 (金)～5/8 (日)

[場所] 塘路湖エコミュージアムセンターレクチャールーム

\* 入場無料

お申し込み お問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

春の湿原ハイク「春の風と語ろう」 [日時] 5/8 (日) 10:00～12:00

湿原の夏鳥ウォッチング [日時] 5/22 (日) 9:00～11:00

お申し込み お問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

## 塘路湖・シラルト口湖・コッタ口湿原周辺の自然情報

【植物】(3/18)フクジュソウ・フキノトウ (4/4)ヤチハンノキとシラカバの雄花が目立つ (4/6)ウラボロイチゲ・エゾエンゴサク・フッキソウ (4/9)エゾノバッコヤナギの芽輝く・沼地に浮いていたドクゼリの根茎・エンコウソウの芽 (4/10)アズマイチゲ

【鳥】(3/18)オジロワシ・アオサギ・カワアイサ・アカゲラ・コゲラ (3/19)タンチョウ・オオハクチョウ(3/20)ハクセキレイ (3/24)ホオジロガモ・ミコアイサ・ハイタカ (4/2)巣材の枝を運ぶアオサギ (4/4) コガモ・ヒシクイ約700羽・オオワシ (4/6)ヤマゲラ (4/10)キンクロハジロ・ヨシガモ・ヒドリガモ・オシドリ (4/11)ミサゴ

【その他】(3/18)エゾシカ の群れ (3/20)エルタテハ (3/22)エゾシカ の群れ (3/29)クジャクチョウ (4/10)エゾタヌキの死骸・エゾアカガエル (4/12)シラルト口湖全面解氷 (4/14)塘路湖全面解氷

GW期間中の5月4日(水)は開館します。

空気が乾燥するこの時期、野外活動の際は火気の取り扱いには十分注意しましょう。

5月10日～16日までの1週間は「愛鳥週間」です。今年で65回目を迎え、期間中、全国で野鳥保護にちなんだ行事が行われます。

日出・日入時間 4/15(4:42, 18:04)・4/30(4:19, 18:21)・5/14(4:01, 18:37)



開花はいつ? (元村キャンプ場のキタコブシ)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: [emc@hokkai.or.jp](mailto:emc@hokkai.or.jp)

開館時間 10:00～17:00 (11月～3月は16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 入館無料